

安全な学校をめざせ

事件や事故、災害から子どもを守るため、安全な教育環境の整備に取り組む学校を認証する制度「セーフティプロモーションスクール(SPS)」が注目されている。昨年3月にSPSに認証された東京都台東区立金竜小学校を訪ねた。

生活・災害・交通の3分野

継続的な取り組みを評価

3月8日 公開4.8 H28

「緊急地震速報！」—— 休み時間に突然、警報音が鳴り響くと、外で遊んでいた児童は、すぐに校庭の中央に集まり始めた。校舎内にいた児童も自発的に頭を守る姿勢を取る。

これは金竜小で今年2月に行われた、「抜き打ち避難訓練」の様子だ。「こうした訓練を繰り返しているので、児童たちも自発的に避難行動が取れるようになっていきます」と、同校の古谷尚律校長は説明する。金竜小が、安全な学校づく

くりを重視し始めたのは、2011年に発生した東日本大震災がきっかけ。その一環として取り組んだのがSPSの認証だった。

SPSは、大阪教育大学付属池田小学校で児童8人が犠牲となった事件(01年)の教訓を踏まえ、同大の藤田大輔教授が世界保健機関(WHO)の地域安全推進協働センターによる国際規格を参考にしながら創設した制度だ。七つの指標に基づいた安全推進の取り組みを継続的に実施している学



金竜小学校の校内一斉安全点検で遊具の確認を行う教職員(同校提供)

安全に向け包括的・持続的に取り組める体制が整っている学校を認証する



SPSは「げがや事故が全く起きない学校」を認証するものではなく、

大阪教育大学 藤田 大輔教授

傾向があり、SPSの認証は、そうした弱点を克服し、子どもの安全を守るシステムづくりのスタートラインに立つことだ

たヒヤリハット事例の積み重ねの中から、重大な事件・事故が発生すると指摘されています。SPSの活動により、その潜在的な危険性を減らし子どもを守る

ら先進事例として明示されたい。今後も、SPSの普及に向けた後押しをお願いします。願いたいと思っています。

潜在的な危険性を減らし子どもを守る

現在、多くの学校の安全管理体制は、個別の分野ごとに進められている

公明党の推進により、潜在的な危険性を減らすことに、大きな意味があります。

実施校で事故が減少する成果も

同校の安全対策を統括する平武志主幹教諭は「子どものけがが減ることで、職員が、それに対応する時間も減りました」と話す。

政府が16年度予算に盛り込んだ補助金事業(防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業)の中で、学校の安全対策の先進事例としてSPSを初めて

こうしたSPSの取り組みの成果がはじまっている。児童の外傷を防ぐため、つまずきやすい段差に着色して注意を促すといった工夫をした結果、外傷の発生件数は比較可能な13年4~10

金竜小のほか、大阪教育大学付属池田小など4校だが、大阪府や宮城、高知の各県

打ち出されている。



公明が普及を推進

子どもたちが安心して学べる環境づくりを進めるため、公明党はSPSの普及を推進している。

昨年3月には、石川ひろたか参院議員(参院選予定候補一大阪選挙区)と浮島智子衆院議員らが、当時、認証を申請中の大阪教育大付属池田小を視察【写真】。その後、国会質問で浮島さんがSPSを先進事例として取り上げるなど、認証取得の後押しを政府に働き掛けている。